

提携米通信

2012年11月号・黒瀬農舎



ほうじょう

豊穰の秋・収穫感謝！

今年の稲刈りは、10月14日に完了しました。

前号でもお伝えしたように9月中旬になっても30℃を越す高温が続く、稲は相当くたびれて大きく減収するのではないかと心配していました。

また、10月に入り気温は下がってきましたが、稲刈り中も雨がほと

んどなく、好天が続いてくれました。

当地の例年の稲刈り作業は、ぬかるんで泥んこになるのですが、今年は8月始めに田圃の水を落としてから、ずっと干天でしたので、田圃は乾いて快適な収穫作業ができました。

我が家では、粳貯蔵を行っているため全体の正確な収量は翌年秋まで判明しませんが、稲刈り後一部行った粳摺り状況では、収穫前の心配とは逆に平年よりも幾分収量は多いようで、嬉しい秋となりました。

でも、粒はやや小さく、風味も少し劣るようで、品質の面では上出来とは言えないようですが、この天候では仕方のない範囲です。

申し訳ありませんが、どうぞご理解をお願いします。

ところで、我が農舎では、稲刈りを終わると新米出荷の作業に追われ、また、年末の切り餅や有機生産者仲間のリンゴの斡旋などの案内や注文の取りまとめ、切り餅用モチ米の準備など仕事がたて込む時期になります。

また、11月3日の「ブナ植えの集い」の準備も重なって一年で一番大忙しの時期を迎えます。（ブナ券カンパありがとうございました。）

しかし、今年は好天続きで田圃が乾いて、暗渠（アンキョ）工事を行うにはまたとない好機になりました。そこで、上の写真のように「もみ殻暗渠」の工事を始めたので、更に大忙しの秋となりました。

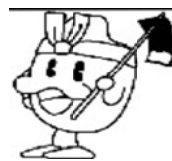
提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

ライスロッジ大潟 代表 黒瀬 正

TEL:0185-45-3088 FAX:45-2887



E-mail: akita@kurose.com Web:

提携米 黒瀬農舎

検索

ウミからアンキョ
湖の底の田圃に、もみ殻暗渠



右に伸びているのがドレンホース

我が農舎の田圃は、かつて日本で二番目に大きかった八郎湖の湖底です。半世紀近く前に、周囲に堤防を築き、中の水を汲み上げて、干し上がった湖底が田圃になりました。

国土の4分の1が海面より低い干拓地であるオランダの技術援助を受けて出来たのが私たちの村であり、私たちの田圃です。

ですから、当然私たちの住宅も田圃も海拔マイナス

1～4メートルです。かつての湖底そのままが、我が家の田圃です。

我が村の隣にある男鹿半島は、数千年前までは半島ではなく島だったと言われています。

北20Kmにある米代川、南20Kmにある雄物川から運ばれた土砂により、陸続きの男鹿半島が生まれたと聞きます。

その根元にある八郎湖・我が村の田圃は、米代川、雄物川による沖積層、形成された後には、湖の葦や水草が腐って長年堆積したのが、我が家の田圃の「土」です。

従って、田圃は有機質に富んで、すこぶる肥沃です。

このお陰で、我が農舎の有機栽培も助けられています。

一方で欠点もあります。

降った雨や、田圃に入水した水は、好天の日に蒸発する以外には、地下に浸透することはまったくありません。

このため、田圃が湿潤で、トラクターやコンバインなど農業機械が沈車するなど作業がしづらいことです。

これを改善する方法が暗渠（アンキョ）です。

暗渠は、写真のようにトラクターで幅30センチ、深さ60センチから1メートルの溝を掘ります。

一番底に穴が空いた直径8センチ、長さ150メートルのドレンホースを敷設して、その上を籾殻（モミガラ）で埋めます。

籾殻は、珪酸分が多く、酸素の少ない湿潤な土の中では十数年は腐らず、水を通し底のドレンホースに水を導きます。

ドレンホースの先は、排水路に出してあり、田圃の入水時期はホースの先を閉じ、乾かす時期には栓を開け排水を図ります。

こうして田圃を乾かす仕組みが「暗渠」です。

籾殻は理想的な暗渠資材です。通水性が良くても直ぐ腐るものでは困ります。逆に、腐らない砂利や化石系の発泡資材だと、当地のような湿潤な土壌では目詰まりします。

10年ごとに、10メートルおきに暗渠を敷設するのが理想的ですが、籾殻の足りないことや、ドレンホースなどの資材、工事の費用が悩みの種です。

ちなみに、150メートル1本敷設するのに10～20万円。我が家の田圃全体では、1千万円を軽く超えてしまうのです。



敷設完了の先端。後端は150m先の排水路



暗渠を行うための籾殻の準備 / 玄米20俵分入る籾殻袋 / 籾殻袋1つ5000円 / 暗渠1本に6袋余り必要